

スーパーカブ C125では、スタイリングのねらいを以下のように定めました。

古びることのない「スーパーカブデザイン=普遍性」を所有する、という価値観の表現

●シルエット

創業者の思想を受けた初代モデルスーパーカブ C100のデザイナー木村讓三郎は「幅広いお客様が扱いやすいこと」を念頭に、デザイン方針を「普遍性」と定めました。これは現在のHonda二輪のデザインポリシー「機能を外観で表現する」がすでに60年前から実践されていた事を示しています。

スーパーカブ C125のデザインにあたってはこれを踏まえ、独創の車体パッケージングと最新技術を上質なコミューターとして調和させた、気品あるスタイリングを追求しました。

具体的には、乗り降りしやすいステップスルー空間からリアタイヤのストローク軌跡に沿ったサイクルフェンダーで構成されるS字基調のシルエットそれ自体が、「機能を外観で表現する」というHonda二輪デザインの基調そのものを端的に表わしています。

ボディ全体を滑らかでおだやかな曲面で機能的に構成し、レッグシールドからリアフェンダー後端にかけて両サイドに硬質なエッジを通すことでハイライトを走らせ、シルエットの基調をエレガントに際立たせました。

このシルエット実現にあたっては、1mm、2mmレベルの微妙な差が完成車の印象を大きく左右するため、リアフェンダーには厚みが必要な樹脂成形ではなく、より薄いスチール材のプレス成形を採用する事で解決を図りました。



■スーパーカブ C125 “S字”シルエット